

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 931 号	氏名	大島 一浩
学位審査委員	主 査	西田 教行	
	副 査	森内 浩幸	
	副 査	佐々木 均	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、メロペネム耐性緑膿菌による肺炎に対し、高用量のメロペネム投与の有効性をマウスモデルにおいて明らかにしようとしたもので目的は妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>最小発育阻止濃度 (MIC) が $16\mu\text{g/ml}$ を示したメロペネム耐性緑膿菌臨床分離株 2 株をマウスに経鼻投与して肺炎モデルを構築し、このモデル系でのメロペネムの生存期間に与える影響を、無治療群、低用量群、高用量群にて比較検討している。また肺の病理学的変化、増殖細菌数、気管支肺胞洗浄液中 (BALF) の炎症細胞数、メロペネム濃度を測定し、統計学的検定を行っており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、高用量群では有意に生存期間の延長を認め、肺内生菌数の減少、血液中生菌数の減少、BALF 中炎症細胞数の減少を認めた。高用量群において肺胞組織間液および肺胞上皮粘液 (ELF) 中のメロペネム濃度はともに MIC を超え、Time Above MIC (TAM) が 20% を超えていることから、静菌的に作用したものと考察を行っている。本研究成果は、致死率の高い緑膿菌肺炎の治療法確立のための臨床研究へと進展することが期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は呼吸器感染症学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			